

## 資源評価対象種の変更について

2022 年度実施資源評価から道総研水産研究本部が行う資源評価対象種、および海域に変更が加えられました。具体的には以下のとおりです。

1. コマイ（根室海峡海域）の廃止：2021 年度から根室海峡海域を含む道東太平洋海域のコマイが国による新たな資源評価対象種となったため、道総研が行う資源評価対象種から除外することにしました。なお、国による資源評価も引き続き道総研水産研究本部が主体的に実施します。
2. スケトウダラ（道南太平洋・道東太平洋海域）の統合：系群としては同じであることから海域を統合し、スケトウダラ（太平洋海域）として評価することとなりました。
3. ハタハタ（渡島胆振・日高・道東太平洋海域）の統合：系群としては異なると考えられますが、昨今のこれら海域におけるハタハタの重要度や、評価書作成に係る労力等を考慮し、ハタハタ（太平洋海域）として 1 つの評価書に統合することになりました。なお、評価書は 1 つになりますが、海域ごとの情報はこれまでどおり掲載します。
4. キチジ（道南太平洋・道東太平洋・オホーツク海海域）の統合：ハタハタ（太平洋海域）と同様の観点から、キチジ（北海道周辺海域）として 1 つの評価書に統合することになりました。なお、評価書は 1 つになりますが、資源水準等は太平洋海域、オホーツク海海域に分けて掲載します。
5. ブリ（北海道周辺海域）の追加：近年、北海道での漁獲が増加し、資源として重要度が増していることから、道総研の資源評価対象種に追加しました。